

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	千葉県	事業実施主体	千葉県、銚子市	地域再生計画名	地域資源を活用した銚子創生計画
計画期間	平成29年度～令和5年度	評価責任者	千葉県総合企画部長、農林水産部長、県土整備部長、銚子市企画課長、農産課長、都市整備課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績		基準年度	最終実績					
	目標 1	農業生産の活性化 （管内野菜出荷量の増加）	113,900トン	H27	117,380トン	R1	117,900トン	119,500トン	R6	96,525トン	×	指標総数		達成数
	目標 2	観光交流の活性化 （年間観光入込客数の増加）	2,347千人	H27	2,700千人	R1	2,554千人	3,046千人	R6	2,130千人	×	3		0
目標 3	スポーツツーリズムの推進 （スポーツ合宿施設宿泊者数の増加）	0人	H27	10,500人	R1	7,243人	16,600人	R6	9,773人	△			コロナ禍により、当初は宿泊者数は伸び悩んでいたが、コロナ禍の収束に伴って宿泊者数は伸びてきている。近年は施設環境を充実させることで、さらなる拡大を目指しているが、期間中の目標は達成できなかった。	
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標 1	ほ場から郊外商業施設等への物流時間の短縮	-	-	-	-	-	-	-	-	-		市道と広域農道を一体的に整備することにより、ほ場から郊外商業施設等への物流時間が短縮された。	
		銚子市小長町～郊外商業施設等	31分	H28	31分	R1	31分	19分	R6	19分				
	指標 2	集出荷施設から首都圏へのアクセス時間の短縮	-	-	-	-	-	-	-	-			-	市道と広域農道を一体的に整備することにより、集出荷施設から首都圏へのアクセス時間が短縮された。
		集出荷施設～農道終点（東庄町小南）	31分	H28	31分	R1	31分	21分	R6	21分				
	指標 3	観光地等までのアクセス改善	-	-	-	-	-	-	-	-			-	市道と広域農道を一体的に整備することにより、観光地へのアクセス改善が図られた。
		①東庄町小南～犬吠埼	41分	H28	39分	R1	39分	36分	R6	36分				
②東庄町小南～銚子マリナ	45分	H28	38分	R1	38分	35分	R6	35分						
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R1）	最終実績									
地域再生計画に記載がある特別の措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		130m	130m	130m	今回の整備により農作物を運ぶ大型輸送車の通行が可能となったと考えている。市道及び広域農道を一体的に整備することにより、農作物の出荷に係る時間短縮による経済効果のみでなく、内陸部から海岸部へのアクセスの向上がもたらす観光客の増加等による地域産業の活性化が図られた。								
	広域農道整備事業（整備延長）		1,384m	600m	1,384m	今回の整備により農作物等の輸送距離が短縮されたと考えている。市道及び広域農道を一体的に整備することにより、農作物の出荷に係る時間短縮による経済効果のみでなく、内陸部から海岸部へのアクセスの向上がもたらす観光客の増加等による地域産業の活性化が図られた。								
その他の事業	農産物の販路拡大		地元産の農産物のブランド化を推進し、消費拡大を図るため、「銚子農産まつり」など、食まつりイベントの開催。販路拡大のため市外、県外へのPRイベントに参加する。			・市の補助を受けてJAちばみどりが農産物（野菜、畜産物、花き等）のPRを観光客や市民に向けて行っていた「銚子E農業まつり」は、コロナ禍でのイベントの中断を経て、現在は自立し、JAちばみどり単独のイベントとして開催し、農産物（野菜、畜産物、花き等）のPRを観光客や市民に向けて行っている。								
	農業人材の育成・確保		銚子市農業人材育成確保支援協議会が農業人材育成と確保を支援するため、農業技術等の研修会、地域周辺との親睦支援等を実施する。			・銚子市農業人材育成確保支援協議会が、農業後継者の育成を目的として、銚子市新規就農者激励会を開催するなど、農業人材育成と確保に取り組んだ。								
	スポーツツーリズムの推進		スポーツツーリズムを推進するNPO法人と連携し、スポーツイベントの誘致や開催支援を行う。マラソン大会やスポーツ合宿誘致を行う。			・NPO法人と連携して、「銚子イイ！グルメライド」と題し、銚子グルメを前面に押し出した民間のサイクリングイベントを誘致、開催した。また、毎年「銚子さんまマラソン」と題して銚子半島ハーフマラソンを実施し、参加者に銚子で水揚げされたさんまの炭火焼きを振舞い、大会ホームページで市内観光のPRを行っていた。しかし、コロナ禍に経たことでスポーツを主体とした屋外の大規模イベントはほぼ中止となり、現在も再開されていないが、スポーツ合宿を中心に行っている銚子スポーツタウンにおいては、バスケットボール、サッカー、野球などの種目を中心にイベント開催や合宿誘致を行っている。								

		日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会の活用	関係自治体で構成している協議会において、日本遺産を総合的に発信する。案内板、説明板の整備を行う。	・観光客誘致に向けた取組（旅行商品造成、商談会への参加、デジタル活用のプロモーション活動）、教育旅行誘致に向けた取組（校外学習向け情報提供）、民間事業者と連携したPR活動や観光コンテンツ高付加価値化促進事業などを実施した。また、子ども向け「マンガで旅する『北総四都市江戸紀行』」を制作した。令和5年度以降、JR東日本千葉支社など民間事業者と連携した取組みが充実してきている。
	計画外で独自に実施した事業			
④評価方法		千葉県地方創生総合戦略推進会議（12月開催）にて、最終目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。		
⑤事後評価の公表方法		千葉県及び銚子市のホームページ		
⑥計画全体の総合評価		市道と広域農道の整備により、ほ場からの郊外商業施設等への物流時間を12分、集出荷施設から首都圏へのアクセス時間を10分、さらに観光地等までのアクセス時間を最大10分短縮することができた。このことにより、銚子の地域資源を活用するための基盤整備を実施することができた。一方で、農家の高齢化に伴う離農等による生産者の減少、コロナ禍等の外的要因による影響を受けたことで達成できなかった数値目標も複数あり、地域活性化を目標通り進めるには至らなかった。		
⑦今後の方針等		市道と広域農道の整備による、観光地間や農産物の生産地と消費地間のアクセス力強化の効果を最大限発揮していくため、引き続き、農産物の販路拡大やスポーツツーリズムの推進などのソフト事業を実施し、銚子の地域資源を活用した地域活性化に向けた取組を進めて行く。		